

**IBM Cognos TM1**  
バージョン 10.2.2

## **新機能ガイド**

**IBM**

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、11 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 に適用されるものであり、後続のリリースにも適用される可能性があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos TM1  
Version 10.2.2  
New Features Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2007, 2014.

---

## 目次

はじめに . . . . .	v
<b>IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .</b>	<b>1</b>
IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	1
IBM Cognos TM1 Web バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	2
IBM Cognos TM1 Scorecarding バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	3
IBM Cognos TM1 Operations Console 10.2.2 での新機能 . . . . .	4
IBM Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	5
IBM Cognos TM1 Applications バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	5
IBM Cognos TM1 Mobile Contributor バージョン 10.2.2 での新機能 . . . . .	6
Cognos Insight 10.2.2 での新機能 . . . . .	7
<b>特記事項 . . . . .</b>	<b>11</b>



---

## はじめに

IBM® Cognos® TM1® バージョン 10.2.2 には、パフォーマンス機能とスケーラビリティ機能が備わっています。

IBM Cognos TM1 は、ビジネス計画、パフォーマンス測定、および運用データを統合します。それにより企業は地理的または構造的状況に関係なく、ビジネスの効果性および顧客との対話を最適化することができます。Cognos TM1 では、データの即時の可視性、協調プロセス内の説明責任、および情報の一貫した表示が可能になります。

### 情報の検索

Web 上でドキュメント (各言語版のすべてのドキュメントを含む) を入手するには、IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) にアクセスしてください。

### サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実際の名前、住所、電話番号、または取引額との類似は偶発的なものです。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。無断の複写は禁止されています。

### ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、または視力の限られた方など、身体の不自由な方に情報技術製品をご使用いただけるように支援します。IBM Cognos TM1 は、一部の構成要素でユーザー補助機能をサポートしていません。IBM Cognos TM1 Performance Modeler、IBM Cognos Insight、および Cognos TM1 操作コンソールはユーザー補助機能に対応しています。

### 将来予想に関する記述

このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。



---

## IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 での新機能

以下のリストは、IBM Cognos TM1 の前回のリリース後の新機能を示しています。

---

### IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.2 での新機能

TM1 コア・ソフトウェアのバージョン 10.2.2には、以下の新機能があります。

#### モデルのローカライズ

TM1 サーバーの TM1 オブジェクトをローカライズすることにより、ユーザーは何も設定せずに現行ロケールでオブジェクト名を表示できるようになりました。

「*IBM Cognos TM1 開発者ガイド*」の『モデルのローカライズ』を参照してください。

#### 64 ビットの Architect および Perspectives の提供開始

TM1 Architect および TM1 Perspectives が 64 ビットになりました。TM1 Perspectives は、64 ビット・バージョンの Microsoft Excel 2007、2010、および 2013 で実行できます。これらのオプションは、デフォルトでインストールされており、ご使用のオペレーティング・システムおよびマシン・タイプに応じて使用可能になります。

#### SaveDataAll および CubeSaveData が並行エンド・ユーザー・アクティビティーを使用できるようになりました。

バージョン 10.2.2 で、SaveDataAll および CubeSaveDataAll は、直列化されたキューブに対する並行ユーザー読み取り/書き込みアクティビティーを有効にすることができるようになりました。次のシナリオでは、並行性のために通常のロック競合が起きません。

表 1. SaveDataAll 並行性のシナリオ

アクション	シナリオ
ログオン	User has private views User has private Subsets User has Sandboxes User is connected via CAM
データの読み取り	Open Public View Open Private View Open Private View with Private Dynamic Subset Open Public View with Public Dynamic Subset
オブジェクトの作成	Create Public View Create Private View Create UDC Create Sandbox Create Hold Create a Rule (save rule file)

表 1. SaveDataAll 並行性のシナリオ (続き)

アクション	シナリオ
視点、Planning、TM1Web、 および Architect でのオブジ ェクトの書き込み	Single Cell Paste Cells Data Spreading SandBox merge
TM1 Applications	Open a TM1 Application Take ownership Submit a node
TurboIntegrator プロセス	CellPutN and CellPutS Create View Create Subset

SaveDataAll プロセス中のディメンションの更新は、直列化されているキューブを含まないディメンションに対してのみ許可されています。

「IBM Cognos TM1 リファレンス・ガイド」の『SaveDataAll』または『CubeSaveData』を参照してください。

## Microsoft Windows 64 ビット TM1 サーバー用の新しい ODBC プロキシ機能

ODBC プロキシを使用することにより、TM1 TurboIntegrator ODBC プロセスで 32 ビット ODBC DSN が利用可能になります。64 ビット ドライバーが使用不可の場合に、この機能は便利です。

「IBM Cognos TM1 インストール・ガイド」の『EnableODBCproxy』を参照してください。

## 新しいサンプルが使用可能に

Proven Techniques は、デフォルトでインストールされる新しいサンプル・データベースです。GO\_Scorecards サンプル・データベースも、デフォルトでインストールされるようになりました。

詳しくは、「IBM Cognos TM1 インストールおよび設定ガイド」の『サンプル』を参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Web バージョン 10.2.2 での新機能

新しい TM1 Web API が使用可能になりました。TM1 Web。

### TM1 Web API

IBM Cognos TM1 Web をスタンドアロン・アプリケーションとして使用することに加えて、独自のカスタム Web アプリケーション内でも使用することができます。Web プログラマーと TM1 アプリケーション開発者は Cognos TM1 Web アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用して、TM1 Web オブジェクトをカスタム Web アプリケーション、ポータル、およびダッシュボードに取り込むことができます。



### Cognos TM1 Web URL API

URL およびパラメーターの特別なセットを使用することによって、URL API は Web シートおよび Cube Viewer オブジェクトへのアクセスを提供します。簡単な例は、Web ブラウザーのアドレス・バーで直接実行できます。URL API を使用してソリューションを作成するには、HTML に関する知識と、オプションで JavaScript に関する知識が必要です。

### Cognos TM1 Web JavaScript ライブラリー

JavaScript ライブラリーを使用することにより、HTML、JavaScript、および Dojo を組み合わせた Web ページ開発環境において、TM1 Web シートおよび Cube Viewer オブジェクトにプログラマチックにアクセスできます。JavaScript ライブラリーを使用するには、HTML、JavaScript、Dojo、および HTML Document Object Model (DOM) に関する知識が必要です。

『TM1 Web API 』を参照してください。

## TM1 Web でスコアカードのユーザー指定の図を開く

IBM Cognos TM1 Web ユーザーは、Performance Modeler で開発されたスコアカードのユーザー指定の図を開いて表示できるようになりました。チャート・ビューを変更して分割し、チャート・タイプを、使用するスコアカード視覚化に変更します。

詳しくは、本資料の『スコアカード』セクションを参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Scorecarding バージョン 10.2.2 での新機能

TM1 Scorecarding では視覚化に関する機能が拡張されました。

これらの機能については、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」および「*IBM Cognos TM1 Web ユーザー・ガイド*」で説明されています。

### TM1 Web でスコアカードのユーザー指定の図を開く

IBM Cognos TM1 Web ユーザーは、Performance Modeler で開発されたスコアカードのユーザー指定の図を開いて表示できるようになりました。チャート・ビューを変更して分割し、チャート・タイプを、使用するスコアカード視覚化に変更します。

「*IBM Cognos TM1 Web ユーザー・ガイド*」の『ユーザー指定の図の表示』を参照してください。

### スコアカードの視覚化におけるカスタム評価指標インジケータの使用

TM1 Performance Modeler の TM1 Scorecarding で作成される図は、TM1 Web 内で開いて表示できるようになりました。

「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ガイド*」の『TM1 スコアカード・ソリューションの作成』を参照してください。

## 評価指標ディメンションの計算に基づく評価指標間の影響関係のディスカバー

影響図を作成する場合、評価指標ディメンションの計算式を自動的に分析して評価指標間の影響をディスカバーし、割り当てることができます。

「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ガイド」の『影響図のメトリック同士の影響関係の確認』を参照してください。

## Performance Modeler でユーザー指定の図を構築するための「プレビュー」タブ

Performance Modeler のユーザー指定の図エディターに、エンド・ユーザーに表示されるときと全く同じように図を表示できる「プレビュー」タブが備わりました。

「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ガイド」の『スコアカードのユーザー指定の図の作成』を参照してください。

## スコアカード視覚化における対話の拡張

影響図および戦略マップには、ズーム、すべて展開/すべて省略のコントロールを含む特定の領域と、これらの機能を 1 つのロケーションで使用するための凡例が含まれるようになりました。

「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ガイド」の『スコアカードの図および可視化との対話』を参照してください。

## 評価指標を使用したスコアカード・ダッシュボードのナビゲート

IBM Cognos Insight ユーザーは、戦略マップ内の目標にマウスを移動して特定の評価指標を選択することによって、自分のスコアカード・ダッシュボードをナビゲートできるようになりました。

「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ガイド」の『スコアカードの図および可視化との対話』を参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Operations Console 10.2.2 での新機能

レイアウト設計および新規レポート用のオプションの数が増えました。

### 新規ログイン

TM1 Operations Console のログイン画面で、「ネームスペース」を指定することができます。

「*IBM Cognos TM1 Operations Console* ガイド」の『TM1 Operations Console の設定』を参照してください。

### 新しいレイアウト・マネージャー

レポートをタブに分けることで、より効率的に表示を操作できます。ユーザー・インターフェースは、モニター・モードと構成モードに分かれました。

「IBM Cognos TM1 Operations Console ガイド」の『TM1 Operations Console でのサーバーのモニター』を参照してください。

## 新しいサーバー・ログの追加

Cognos TM1 Operations Console を使用して、トランザクション・ログ、メッセージ・ログ、および監査サーバー・ログにアクセスできるようになりました。

「IBM Cognos TM1 Operations Console ガイド」の『IBM Cognos TM1 Operations Console のログ・ファイル』を参照してください。

## 新しい視覚化チャートの追加

TM1 Operations Console でスレッドの集計およびメモリー使用量チャートが使用可能になりました。

「IBM Cognos TM1 Operations Console ガイド」の『メモリー使用量のグラフ』および『スレッド詳細のグラフ』を参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.2 での新機能

IBM Cognos TM1 Performance Modeler での新機能。

### モデルのローカライズ

ご使用の TM1 サーバーの TM1 オブジェクトをローカライズすることにより、ユーザーが何の設定をしなくてもオブジェクト名を自分の現行ロケールで表示できるようことができます。このトピックは「IBM Cognos TM1 開発者ガイド」で説明されています。『モデルのローカライズ』を参照してください。

### TM1 Applications の機能

TM1 Performance Modeler でアクセスされる TM1 Applications 機能のリストについては、『『IBM Cognos TM1 Applications バージョン 10.2.2 での新機能』』を参照してください。

### スコアカード機能

このリリースの TM1 スコアカード機能のリストについては、『3 ページの『IBM Cognos TM1 Scorecarding バージョン 10.2.2 での新機能』』を参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Applications バージョン 10.2.2 での新機能

TM1 Applications の新機能

### 注釈のページがより柔軟に

ページする注釈をさまざまな基準を使用して指定することができます。一度に複数のアプリケーションの注釈をページできます。

『注釈のページ』を参照してください。

## モデルの作成者は中央アプリケーションで「所有権の取得」オプションを無効にすることができます。

中央アプリケーションは「所有権の取得」をオプションとして常に使用することができます。今後、モデルの作成者は、中央アプリケーションのユーザーにこのオプションまたは関連するアクションが表示されないようにすることができますようになりました。

『*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*』の『中央アプリケーションの権限の管理』を参照してください。

## バックグラウンドで長時間実行するジョブの管理

TM1 Applications ポータルで長時間かかり、バックグラウンドで処理される、アプリケーションの配布、権限の初期保存、およびインポートをモニターすることができます。

『バックグラウンドで長時間実行するジョブの管理』を参照してください。

## セキュリティー・オーバーレイ

セキュリティー・レイヤーをモデルに適用するために、「セキュリティー・オーバーレイ」を使用することができます。

『*IBM Cognos TM1 Applications ガイド*』の『TM1 Applications での対話権限およびアクセス権限』および『*IBM Cognos TM1 リファレンス・ガイド*』の『TurboIntegrator のセキュリティー機能』を参照してください。

---

## IBM Cognos TM1 Mobile Contributor バージョン 10.2.2 での新機能

Cognos TM1 Mobile Contributor 10.2.2 には、以下の新機能および拡張が含まれています。

### TM1 スコアカード

TM1 スコアカード・キューブおよび影響図を表示し、これらと対話できるようになりました。

### 監視リスト

監視リストの新機能として、ステータスとトレンドなどの TM1 スコアカード・メトリックをモニターします。

### ナビゲーション

TM1 Mobile Contributor のユーザー・インターフェースおよびレイアウトが拡張され、TM1 Applications、TM1 Server およびキューブ、および監視リストにアクセスするサイドバーが含まれるようになりました。

### プッシュ通知

スコアカードのプッシュ通知を監視リストでモニターするようになりました。

詳しくは、「IBM Cognos TM1 インストールおよび設定ガイド」の『Cognos TM1 Mobile Contributor の配布』を参照してください。

## Cognos Insight 10.2.2 での新機能

IBM Cognos Insight バージョン 10.2.2 には新機能があります。

それらの機能について詳しくは、Cognos Insight 製品資料 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSVJ22/welcome>) の「IBM Cognos Insight ユーザー・ガイド」を参照してください。

### ワークスペース全体の印刷

一度に 1 つのタブを印刷するのではなく、一度にワークスペース全体を印刷できるようになりました。

### 動的値

IBM Cognos Insight に動的値が組み込まれるようになりました。この動的値は、クロス集計からの単一メンバーまたは数値データを表示するウィジェットです。例えば、クロス集計で収益を製品ライン別および年別に表示する場合、ワークスペース・タブのタイトルに今年の合計収益を表示する動的値を追加できます。

### 条件付き書式を使用したセルの強調

条件付きスタイルを IBM Cognos Insight ワークスペースに追加して、特定の条件を満たすセルを強調できるようになりました。

### 不規則でバランスのとれていない階層のインポートのサポート

不規則でバランスのとれていない階層を IBM Cognos Insight にインポートできるようになりました。元の構造を保持するか、または構造を調整するかを選択できます。

不規則な階層では、データのうち一部のレベルが欠落します。例えば、次の表では「州」レベルが 2 つの行で欠落します。

表 2. インポート前の不規則な階層の例

地域または国	州	市
米国	カリフォルニア州	サンフランシスコ
米国	カリフォルニア州	ロサンゼルス
米国		ワシントン特別区
バチカン市国		バチカン市国

バランスのとれていない階層では、リーフ・メンバーすべてが同じレベルであるとは限りません。例えば、次の表では、レベル 2 のリーフ・メンバーとレベル 3 のリーフ・メンバーとがあります。

表 3. インポート前のバランスのとれていない階層の例

レベル 1	レベル 2	レベル 3
従業員 A	従業員 B	従業員 E
従業員 A	従業員 B	従業員 F
従業員 A	従業員 C	
従業員 A	従業員 D	

## 取り消しおよび再実行

IBM Cognos Insight ワークスペースで実行する一部のアクションの取り消しおよび繰り返しが可能になりました。

45 アクションまで取り消しまたは再実行を行うことができます。

**制約事項:** 「元に戻す」アイコンを使用して、以下のアクションを取り消すことはできません。

- メンバー、ディメンション、およびキューブの追加または削除などのデータ・モデルの変更。
- コメントの追加または削除。
- IBM Cognos TM1 TurboIntegrator (TI) プロセスを実行するアクション・ボタンの実行。
- 計算の変更。
- インポートおよびエクスポートの実行。
- IBM Cognos Express® または IBM Cognos TM1 サーバーへの接続。
- 印刷、発行、またはシェア。
- Cognos Insight 設定または基本設定の変更。
- セルの保持またはリリース。

## データの同期

IBM Cognos Insight ワークスペース内のデータをウィジェット別、タブ別、またはワークスペース別に同期できるようになりました。例えば、タブ A の探索ポイントで行ったデータの変更を、タブ B のクロス集計のデータに同期できます。

## ウィジェットを使用した作業

IBM Cognos Insight ワークスペース内のタブおよびウィジェットのリストを表示できるようになりました。このリストを使用して、特定のタブまたはウィジェットに移動したり、タブまたはウィジェットの設定を変更したりすることができます。

「ワークスペース」セクションは「内容」ウィンドウの新しい部分です。このセクションに、現在のワークスペース内のすべてのタブとウィジェットがリストされます。「ワークスペース」ペインから、以下のアクションを実行できます。

- ウィジェットを右クリックして、ウィジェット用のコマンドのリストにアクセスする。これらのコマンドは、「ウィジェット・アクション」メニューから選択可能なコマンドと同じです。
- タブを右クリックして、タブの名前を変更するか、またはタブを削除する。

- タブまたはウィジェットをクリックして、ワークスペース内の対象のオブジェクトに移動する。

## Contributor ビューおよび承認者ビュー

IBM Cognos TM1 管理者が IBM Cognos Insight から Cognos TM1 Applications に接続すると、Contributor ビューと承認者ビューが別々のレイアウトに表示されることがあります。

アプリケーション作成者が IBM Cognos TM1 Performance Modeler でアプリケーションを作成する場合、作成者は Contributor と承認者に別々のビューを定義することができます。Cognos TM1 管理者が Cognos Insight から Cognos TM1 に接続する場合、管理者は作業するビューを Contributor または承認者から選択することができます。Cognos Insight では、これらのビューは別々のレイアウトで表示されます。例えば、Contributor ビューはクロス集計に複数の探索ポイントを表示できますが、承認者ビューは 1 つのグラフとクロス集計しか表示できません。

これらの異なるレイアウトは Cognos Insight で作成できます。Cognos TM1 管理者がワークスペースを元の Cognos TM1 に発行すると、発行するビューにはワークスペース・レイアウトが含まれるようになります。したがって、Cognos TM1 管理者が Contributor ビューで接続している場合に、その管理者はワークスペースのレイアウトを変更して、そのアプリケーションの Contributor ビューとして発行することができます。

Contributor ビューと承認者ビューについて詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」を参照してください。IBM Knowledge Center (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter>) で、ご使用の製品およびバージョン用のユーザー・ガイドにアクセスしてください。

## 現行ロケール用に表示されるキャプション

各言語用に異なるキャプションを備えたワークスペースでは、IBM Cognos Insight の「**個人用基本設定**」に設定されたロケールに適用されるキャプションのみが表示されるようになりました。

## 新規データ・スプレッド・オプション

IBM Cognos Insight に、データ・スプレッドのリーフの反復メソッドが組み込まれるようになりました。

データ・スプレッドのリーフの反復メソッドを使用することにより、値を集約のすべてのリーフに、または非ゼロ値を含むリーフだけにコピーできます。





---

## 特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。しかし、それを参照するためには、その言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要となる可能性があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group  
Attention: Licensing  
3755 Riverside Dr.  
Ottawa, ON  
K1V 1B7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

この「ソフトウェア・オフファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。